

# ワクワク船場

～チャレンジを支え、人を育むまち～

SENBA

to2030

## 2030年の船場で過ごす人たちは

もっと自由に、もっとボーダレスに、そしてもっと人らしさを求めて、まちで過ごしているのではないだろうか。

IoTやAIや働き方改革の進展により、どこでも仕事ができるようになり、人はヒューマンタッチの仕事のみをするようになっていこう。そして、都市で過ごす総人口は今より少なくなっているかもしれない。

それは悲しいことではなく、余白の空間や空いた時間で、働き方や暮らしをもっと豊かにできるチャンスがあるということ。

家から1歩も出なくても、誰とも会わなくても生きていく時代に、なぜ人は、都市に集まるのか。

まだ見ぬことへの「チャレンジ」や、予期しない「交わり」との出会いを期待しているのではないだろうか。

世界は「SDGs」を背景に、「誰一人取り残さない」社会に走り出している。2030年、気候変動は深刻化しており、都市を取り巻く環境は今より過酷になっていることは自明であるが、都市の快適さは、「多様性をどう受け入れるか」「人が外的変化にどう適応していくか」、人の手にゆだねられている。

## チャレンジを支え、人を育む 懐の深い船場文化

船場はかつて、「暮らすように働く」場所であり、様々な高い人を育てていた。

「旦那と下種」の関係や「暖簾分け」など、暮らしの中で学び、「新しいものを生み出す」場所であった船場。また、商人のまち船場から生まれた言葉として、「利は仕入れなり」という言葉もある。

2030年、働く環境や経済のスタイルなど今は予測できないものにかわつたとしても、「働きたか」が大きく変わる時代だからこそ、これまでの「働く」=仕事をすることだけでなく、チャレンジを生み、人を育む懐の深い船場だからこそこの過ごし方（働き方）ができるのが、「ワクワクする船場」であると考えます。

## 「働きたか」を再定義する2つの仕掛け

船場ならではの「働きたか」とは、船場が持つ歴史やアイデンティティをベースに、船場の企業や空間などのリソースを活用し、自分のノウハウを活かしたチャレンジを試みたり、多様なコミュニケーションにより情報を収集したり、自分のスキルを磨いたりできることを指す。また、「働く」が「暮らし」の一部であることをとらえなおし、船場ならではの「働きたか」を実現するために「働く」を支える機能を充実させていく。

私たちは、そうした船場ならではの「働きたか」を実現させるために、2つの視点で仕掛けていく。

### 「チャレンジ」を育てる仕掛け

会社を立ち上げ独立する、時間単位で自分のスキルを提供する、オフィス以外で仕事をするなど、新しい展開やチャレンジにつながる場や仕組み。また「働く」をトータルで考え、新しい展開へのサポートや「働く環境」としての暮らしをサポートする機能を整えていく。

- ① 船場チャレンジスペース 一余白でコト始め
- ② 船場パーク 一余白を取り戻す
- ③ Uberヒューマン 一つながる船場経済圏
- ④ 船場ベース 一チャレンジに寄り添う

### 「豊かな仕入れ」ができる仕掛け

食事を楽しみながらのフランクなコミュニケーションや新たなチャレンジを通じた情報収集、自分のスキルや知識を高める場に参加する。また、集中的にインプットの時間をもちつ、これからの自分自身の「働きたか」に必要な「豊かな仕入れ」が行える場。時には遊んでいるかのような時間や場を通して、新しい仕事や働きたかにつながる。

- ① 船場食堂 一食を介したフランクな場
- ② 船場わいがやハウス 一泊まる働く
- ③ ワークレット 一まちににじみ出す
- ④ 令和版適塾 一学びあう場

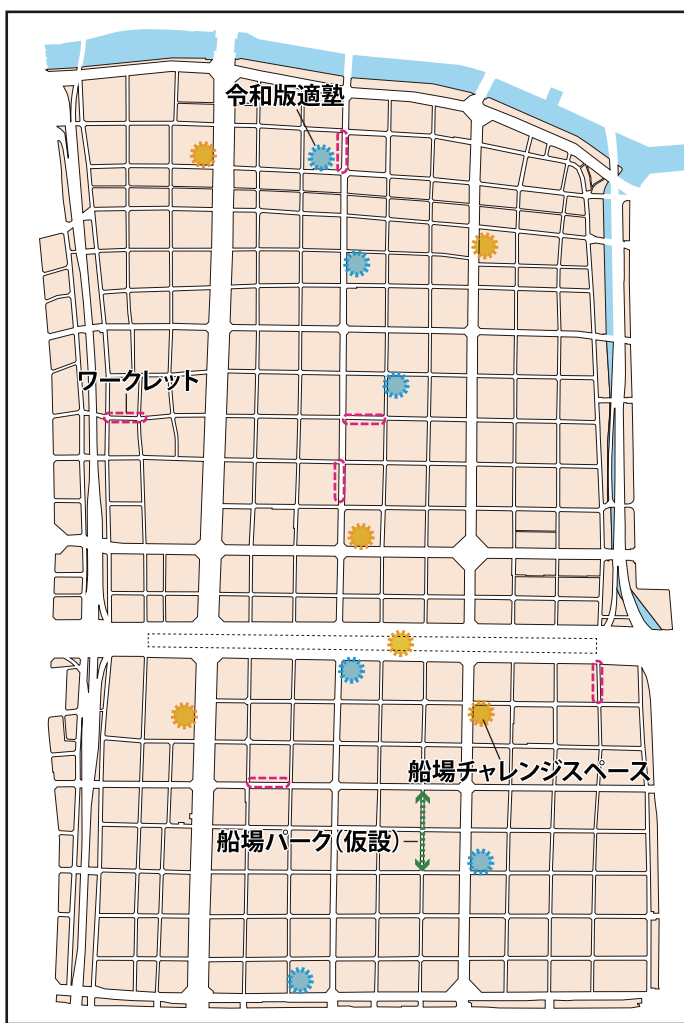
## 「ワクワク船場」を体現する人々「ワーカー」のイメージ

## 実施に向けたプロセス

### チャレンジ期 2020

#### 船場の中でスポット的にスタート

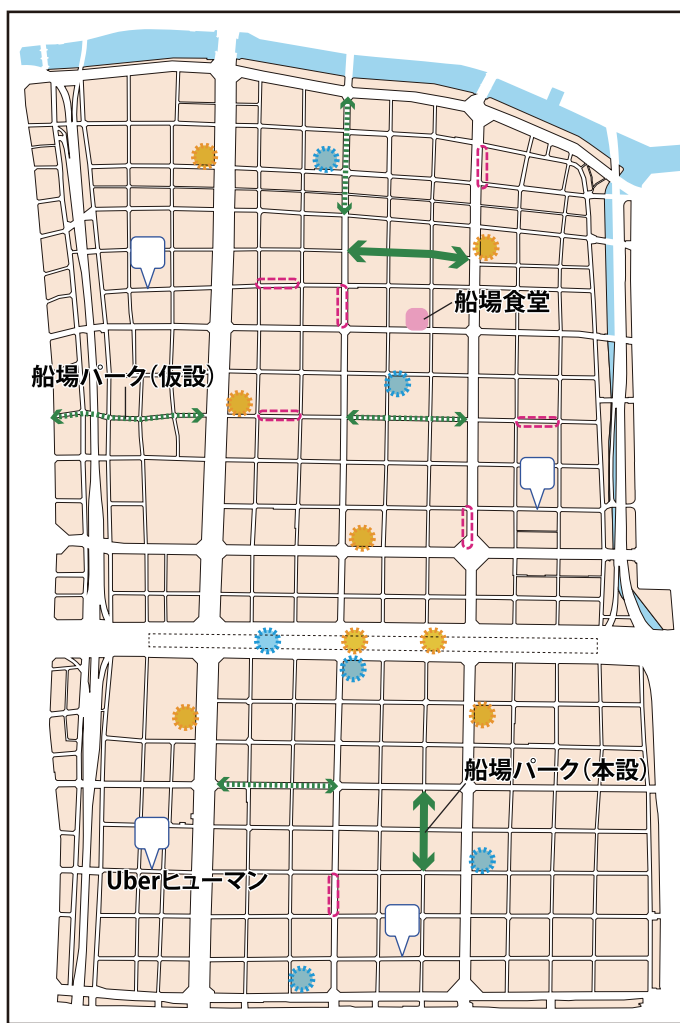
「ワーカー」を創出する仕掛けとして、プロトタイプとして実践するチャレンジのステップ。空いたスペースやフロアを活用させてもらえる企業・オーナーを募り、場所を使ってチャレンジしたい人と場をマッチングしたり、令和版適塾のモデルプログラムを開発したり、スポット的に仕掛けていく。



### 展開期 2025

#### 点をつなぎ船場エリアを充実化

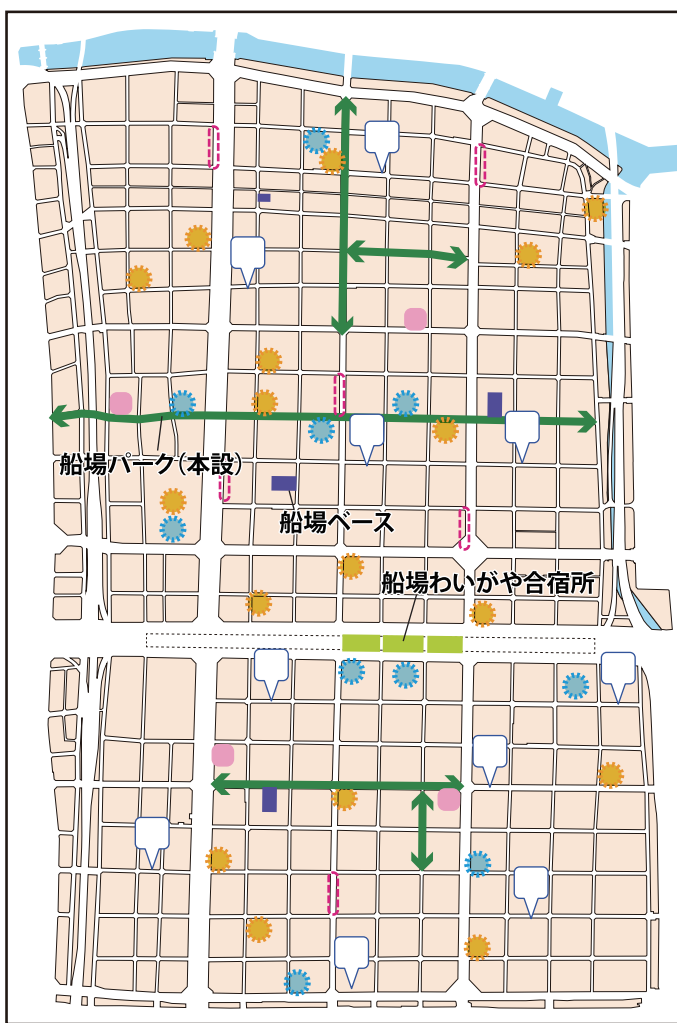
仕掛けをつなぎ、船場エリアを充実させるステップ。活用可能なスペースなどの情報窓口を一元化し、活用したい人への情報発信体制を確立。また、エリア内のビルとの更新に合わせて、「ワーカーフロア」を盛り込むなど、単発的な活用ではなく、立体的な仕掛け【船場トラスト】を展開。



### 発展期(確立期) 2030

#### 船場内の充実と他地区への波及

船場に、「ワーカー」があふれ、多様な働き方、暮らし方のスタイルが定着。新たな結びつきなども生まれるなど、「ワーカーカースタイル」が発展する。「ワーカーカースタイル」が梅田や難波などの他のビジネスエリアに波及。



大阪市内他エリアとの結びつき強化

船場エリアのさらなるワーカーの増殖

ワーカー発祥の地としてのアイデンティティの獲得



提案者及び船場倶楽部の役割  
ワーカーのプレイヤー的立場での実践  
ワーカーを増やしていくための仕掛けとして、船場チャレンジスペースなどの提供など、プレイヤーとしての実践を行っていく

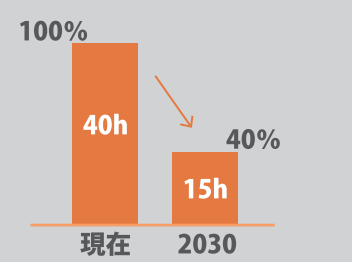
ワーカーのディレクション機能の確立  
船場チャレンジスペースをとりまとめ、使用希望者の窓口となる「船場トラスト」の設立  
Uberヒューマンの登録制度、令和版適塾のプログラム化などの事務局機能を担う

ワーカーのマネジメント組織の役割を発揮  
船場パークの事業推進、船場わいがやハウスや船場ベースの運営など、ワーカーが活躍しやすいようなエリアマネジメント組織としての役割を發揮  
利用料や資料など、自主財源での採算性を高める。

## 2030年までの社会変化

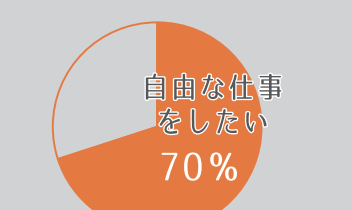
### ■1週間の労働時間 約40%以下に

経済学者ジョン・メイナード・ケインズ氏によれば、2030年までに1週間の労働時間は、15時間になると予測されている。パターン化できる労働はAI化、バリエーションや窓口業務など人間はヒューマンタッチな仕事をする。



### ■働き盛りのホワイトカラーは自由を求める 約70%

2030年に働き盛りとなる現在の30歳前後の若手ホワイトカラー男性の約70%が「組織にしばられずに、自由な仕事をしたい」と回答している。【キャリア意識・行動に関する調査のデータ分析(リクルートワークス研究所)より】



### ■技術革新などにより、働きたかが多様化

今後、通信技術や移動技術の革新、AIやビッグデータなどのさらなる活用などにより、一人ひとりが、時間や空間にしばられない働きかたや、自由な働きたかたの企業組織が増えることが想定される。また、働く人が働くスタイルを選択したり、グローバルな働きたかたなど、「働く」こと志向や働きたかたが多様化すると予測されている。



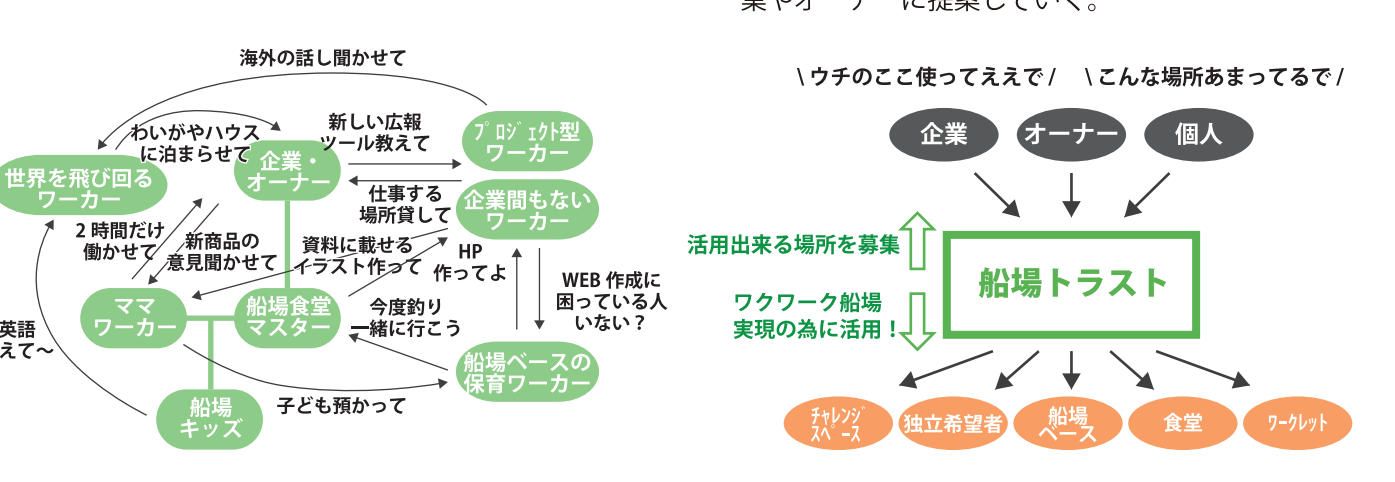
### ■「誰一人取り残さない」世界に

2030年、持続可能な開発目標(SDGs)の目標年であり、性別、人種、国籍、年齢、LGBT、障がい、全ての「壁」がなくなった、誰一人取り残さない、誰もがいきいきと過ごせることが都市の条件になっている。

## 様々な人、場所がネットワークし、みんなで支え合う船場文化圏の構築

人材の流動性を高めながら、それぞれが繋がり、支え合うことができる環境をつくるために、モノ・コト・スキルのシェア、顔が見える環境づくりを進める。働き方も組織に縛られず、ミッションやプロジェクト単位でチームとなり、終了すれば解散する、融合柔軟型の有機的な社会となっていく。

コンセプトに共感してもらえらる企業、個人からの想いを受け止める、町衆の力を合わせた船場らしい仕組みとしての「船場トラスト」を設立。デスクからフロア、屋上や屋外空間まで、使っておらず提供しても良いスペースを募集し、ワーカー船場の実現に活用したり、新たな活用についての提案を企業やオーナーに提案していく。



子育てしながら、ビジネスチャンスもつきたい野心溢れる若手ビジネスパーソン。身近なエリアでそれぞれの情報を得たり、助けを得ながら働いている。

自分の時間とスキルを大切にしたい仕事をしていきたい船場ワーカー。ちょっとした時間に隣のオフィスにスキルを貸したり、自分の趣味の時間を優先したりしながら、自由な時間の使い方を志向。

## みんなで支え合い、「チャレンジ」を育てる仕掛け

### 船場チャレンジスペース

- 新たなことが始められる余白 -

・船場内の屋内から屋外までを含めた”ちょっとした”スペース(デスク、ビルの前空間 etc.)をチャレンジをしどい人たちに貸し出し、新たなコトが起こる余白とする。

### ex.空いているオフィスのデスク

・起業まもないワーカーに安価なオフィスを提供。  
・社内に他社の社員を貸し入れることで新たな交流を創出。



### ex.使っていない会議室

・余っている会議室を利用し、企業に所属しないワーカーやコラボレーションプロジェクトの会議室として利用。一定期間借り上げ、プロジェクトを集中的に進めるための拠点として利用。

### ex.建物の前のデッドスペース

・活用されていない道路と間の外構部分や公開空地において、小さな店舗の設置を認めたり、イベントスペースとして貸し出す。

### しくみ

・実現に向けて仲介組織「船場トラスト」を設立。船場内の企業より余剰デスク、空間を集め、「利用したい人」と「こんな人に使ってほしい」という思いをマッチング。

### 船場パーク

- まちなかの余白を取り戻す -

・中之島と本町通、それぞれから約500mの中間に位置する東西の瓦町通を、大阪城から朝公園を結ぶ公園的な機能を持った空間に再編する。  
・豊かな緑の空間は、船場の環境をアップデートし、住まい手やビジターにも潤いを与える場所に。ワーカーカーにとっては、食事をしながら将来の構想を語ったり、静かに考えに耽ったりとインベーティブな場所になる。  
・暑熱環境を抑制するクールインフラとしても機能し、船場の快適性を高める。

### しくみ

・空間全体は沿道の BID による支援を受けながら船場倶楽部が管理。クオリティの高い出店者を誘致したり、ワーカーカーをサポートするスポットも設置したりできる。



### Uber ヒューマン

- やりたいことがつながる船場経済圏 -

・船場にいる人の「できる」こと、「やりたい」ことを見える化し、それを船場の中にある「やってほしい」という思い」とつなげることで、人と人とのネットワークによる「船場経済圏」を構築する。  
・一企業の中では十分に活かされていなかった個々のスキルや、やりたいという思いを最大限活かし、船場での「働く」を活性化。  
・企業側もめまぐるしく変わる社会の中で、新たな風を取り込み、新陳代謝につなげる。

### しくみ

・WEBを活用して、「やってほしい人」から「やりたい人」「できる人」にアプローチできる仕組みを構築。リアルタイムな情報提供をすることで「時間が空いたらちょっと2時間働きたい」というニーズにも対応。  
・まずは、船場倶楽部がプラットフォームとなり、情報を仲介。「やりたい人」を「やってほしい人」が評価し、それを見える化できる仕組みを導入。



### 船場ベース

- チャレンジに寄り添う -

・船場で、様々な人がそれぞれの能力、意気込みなどにあせた働き方ができるように、ワーカーカーに伴走サポートする機能が盛りだくさん。  
・環境が整うことで船場で働く人やビジネスを始める人が増え、意欲的に働く人の増加、新たな事業パートナーの増加など企業にとってもうれしい。

### ex.働き方サポート機能

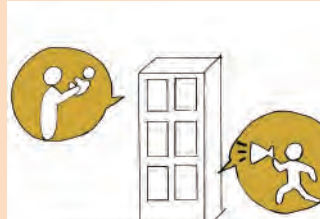
・「自分でスモールビジネスを始めたい」など船場でのワークが実現できるように個人に対してアドバイス、継続的なサポートを行う。

### ex.働く環境サポート機能

・誰もが船場でのワークが実現できるように保育所や学童保育などの機能を、船場内の企業で運営費を出し合い整備。急な打ち合わせでも対応できるなど、働きやすい環境をつくる。

### しくみ

・まずは、船場倶楽部がプラットフォームとなり、情報を仲介。「やりたい人」を「やってほしい人」が評価し、それを見える化できる仕組みを導入。



## 自由な働き方で交わる場を増やし「豊かな仕入れ」ができる仕掛け

### 船場食堂

- 食を介してワーカーが集うフランクな場 -

・ワーカーがフランクに交流する場。船場の老舗刺烹から、最近船場でチャレンジを始めたアジア料理店まで、様々なジャンルの食がここに集う。  
・大テーブルを設置し、さまざまな人が一つの大きな机で食事ができる空間。食という共通言語を通じて偶発的な出会いが生まれ、色々な人から刺激を受けることができる場になる。

### しくみ

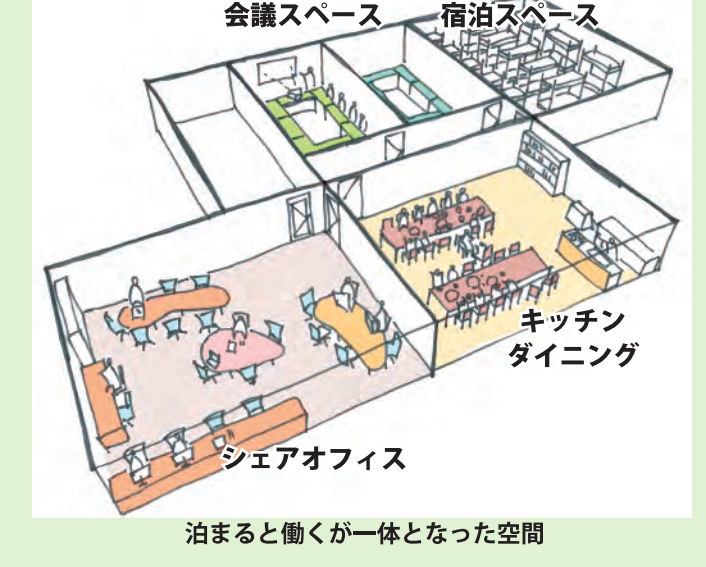
・はじめは、駐車場や公開空地を利用し、イベント的に。将来的には固定的な施設の建設も目指す。  
・運営は船場倶楽部が行い、利益は運営費だけでなく、船場内の公共空間整備など、場づくりに活用。



### 船場わいがやハウス

- 泊まる働く -

・宿泊、シェアオフィス、会議室などの機能を備え、泊まる働くが一体となった場所。  
・出張や世界中を飛び回るワーカーの拠点になり、短期集中的にプロジェクトを進めたいグループ等も宿泊出来る。  
・もちろん宿泊しないワーカーも利用可能。定期的な交流イベントを実施することで、世界を飛び回る人と情報交換をすることが出来る。  
・船場に根を下ろす人と世界がリアルに交わり、わいがやがやと常に新たな出会いや交流が生まれる場に。



### ワークレット

- 人がまちににじみ出す -

・働くまち船場を屋外で体現する装置。ビル内に閉じることなく開放された空間で、思い思いに仕事ができる。打ち合わせ、ミーティングもできるし、偶然通りかかった人たちも交流ができる空間。  
・おもむきにプレゼンテーションを始めれば、自然に人が集まり、意見やアドバイスをくれる。  
・船場のオフィスでは、ワークレットで働くことを奨励。  
・駐車場の一角も、この装置で働く空間に変えることができ、殺風景な駐車場の街並みがイキイキとしたものになる。



### 令和版適塾

- 学び成長しあう場 -

・ワーカーが、個人の取り組みや企業の取り組み、今取り組んでいるプロジェクトなどを紹介する場。  
・船場内の事務所、わいがや合宿所、ワークレットなど各所で定期的に開催。  
・日頃関わりない人との新たな交流が生まれる、いままでは触れることがなかった新たな世界を勉強できる。自分の取り組みに新しい視点からアドバイスがもらえるなど、ワーカーが成長できる場に。

### しくみ

・今までは知らなかった船場のあらゆる顔が見え、多様なまち、人が実感できるようになる。



通りすがりの人からも見える空間

・まずは提案者の事務所ですべて「令和版適塾」を開催。その後、定例化し、船場内の企業が持ち回りで開催。  
・知名度が高まることで将来的には自然発生的に適塾が開催されるようになることを目指す。